
七月の詩

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

七月の詩

【Nコード】

N2943C

【作者名】

【あらすじ】

七月を詩にしてみました。意味はありません。

月が見える

静かな夜 世界は眠る
明かりはなく人気もない
昼の熱を忘れた夜
木々に囲まれた暗い道
見上げれば地上よりも明るい空

太陽は既に去り 大地から熱は失せた
その残り火が月を照らす
見上げる空に七つの月が浮かぶ
満天の星空の中
一際輝く七つの月

一人道に立ち尽くす
月と星が暗く深い青に染める
夜が照らす 青ざめた顔
高く見上げた瞳に写るは七つの月

一人道を行く
天を覆う月と星
地上を蠢く木々の間
間で人は膝をつく
七つの月の下 重く冷たい夜に 膝をつく

「おええええええ」

ビールと焼酎が駆け巡る
後悔が冷たくのしかかる
焼酎は無茶だった
体が急に冷めていく
目の奥がガンガンする
何かが喉にせりあがる

眼鏡をどこかに置き忘れた
乱視の効いた視界はパンチが効いていた
悪酔いも加わり大ファイバー
見上げた空は万華鏡
ああ なんと美しい でも気分悪い

一際輝く月が分裂して見える
1 2 3 4 気持悪い
満天の星空はぼやけて大変な事に
最近の夜空は景気がいい 吐きそう

気分転換の散歩は中止
無理 もう無理だから
民宿に戻って寝る だってもう無理だから

ふらふらと歩く よろよると玄関をくぐる
トイレに極度の絡み酒を誇る光田君がいた
ブツブツと閉じた個室に絡んでいる
中には絡まれたのでトイレに逃げた斎藤君
追いかけられ 扉越しに絡まれる斎藤君

なんて楽しい合宿だろう
布団をしいて寝る

よじやく眠れた頃 光田君に起こされて絡まれた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2943c/>

七月の詩

2010年10月10日07時32分発行